

# 日本神経科学学会 2020 年度の活動報告

日本神経科学学会（渡部文子・東京慈恵会医科大学・awatabe@jikei.ac.jp）

## Activity Report in 2020, The Japan Neuroscience Society

*The Japan Neuroscience Society*

*(Ayako M. Watabe, Jikei University School of Medicine, awatabe@jikei.ac.jp)*

日本神経科学学会は、脳神経系に関する研究の推進を目的に1991年に設立された団体であり、現在約6000名の会員で構成されています。2017年より旧男女共同参画委員会を発展的に解消し、ダイバーシティ対応委員会が発足しました。今年度の大会は2020年度7月に神戸に開催予定でしたがCOVID-19感染拡大によりweb開催となり大きな変化となりました。このような状況への対応を含め同委員会の活動について報告致します。

### 1. 子育て中の研究者の活動支援

本学会における過去7年間の年次大会参加者の男女比を調べたところ、女性の割合が23.93→24.82→26.58%→25.38%→26.67%→26.63%→28.16%とわずかずつ増加し、その後ほぼ横ばいの状態でしたが、今年度のweb開催ではわずかながらさらに増加しました。また、年代別に見てみると、特に20代の女性参加者がこの7年間で1.9倍に増えています。参加が増えている20代～30代女性が年次大会に参加しやすい環境を整備することは、女性が今後も研究活動を継続するために重要であると考えられます。本学会では2004年以来、継続して大会中の託児室を設営しており、子供と一緒に使える休憩室も設置しています。今後、ポスター会場の一角における親子スペースの設置等を含め、このような取り組みを次年度以降も継続する予定です。

### 2. Web開催大会における特色と今後の課題

今年度のweb開催で特筆すべき点として、全体の参加人数が大幅に減った点（昨年度5155人→2532人）、一方で20代の参加者が男女共に急増し

た点（昨年比男性1.4倍、女性1.3倍）、さらに40代の女性比率が急増した点（昨年23.74%→27.09%）が挙げられます（ただし年代別解析については事前登録者のみ）。原因等の詳細な分析については専門学会による報告を待ちますが、学生・若手研究者は、交通費等の不要なweb会議に積極的に参加したことを反映していると考えられます。また40代女性比率についても今後の分析が必要ですが、40代女性は職場でも中間管理職的立場にあり、家庭でも受験生や介護などを抱えたワークライフバランスの厳しい中、出張を伴う活動が困難な状況を反映するのかもしれない。女性研究者支援では未就学児を抱える比較的若手への支援が中心である一方、今後はこうした世代への対策も必要かと考えます。

### 3. 大会中のダイバーシティ対応委員会企画

日本神経科学学会ではダイバーシティ対応委員会主催ランチオン企画として「研究環境のダイバーシティが生み出すイノベーション～ジェンダーのイノベーションの現状と将来」（講演者：隠岐さや香先生、名古屋大学教授）を企画していました。大会web開催の決定後、演者・委員会でのように対応するか協議した結果、やはりセミナー前後でのフロア交流等も重要である点を鑑み、来年度大会に延期することと決定しました。来年はぜひ現地で、さらにコロナ禍による女性研究者のあり方も含めて広くディスカッションしたいと考えています。

ダイバーシティ対応委員会としての活動も4年目に入り、委員のメンバーについても多様性を高めていきたいと考えております。